

東日本関東大震災支援 NGO 情報交換会 第 5 回

- ・ 日時：2011 年 4 月 11 日（月）15 時～17 時
- ・ 場所：早稲田奉仕園 6 階 スカイルーム
- ・ 出席者：出席者リスト参照
- ・ 司会：JANIC 田島（震災タスクコーディネーター）

議事録

1. JANIC からの情報提供

1.1 岩手県南部被災地救援状況視察報告（添付資料 1）

4 月 7 日～8 日に JANIC 大橋、山口、田島が岩手県南部を訪問し、主に市町村レベルの災害ボランティアセンターの現況聞き取りを行った。この訪問について、JANIC 田島より資料に沿って要点を説明。

遠野をまず訪問した。災害ボランティアセンターを中心に、救援の現状を知るための視察。宮城県に入っている団体は多いが、岩手は宮城に比べ圧倒的に支援が足りていない。瓦礫の撤去作業も進んでいない。アクセスが悪いためコミュニケーション（携帯）がとれていない。物的ニーズはほぼ満たされている感。

資料の 2 ページ 大槌町、陸前高田市は運営サポートが非常に重要。大槌町は仮設のテントで若い課長クラスの職員が二人ぐらいでがんばっている。他府県からのサポートもあるが、まだまだ支援が必要。遠野まごころネットが災害ボランティアセンター内に設けられ、活動している。現在の加盟団体は、P2 にあるとおり。

各災害ボランティアセンターをまわって感じた短期的な課題

- ・ 人的ニーズ高い
- ・ できたら県内のボランティアに来てほしい、というところが多い。しかし、現場にはかなり人手が必要な仕事があり、よく聞いていくと県外の人でも来てほしい、ということになる場合もある。
- ・ 外国の NGO についても一定の条件を満たせば受け入れてもいいとのこと。
- ・ 長期的に、中核的に関わってくれる人がほしい。とくに組織支援の人材。ボランティアの枠を超えてやってくれる人。
- ・ 一番人材確保を困難にしているのは宿泊先。被災地はどこも後背地が山で平地が少ない。仮設住宅のための土地もない。自衛隊が野営するために平らなところがとられている。非常に人手が必要にもかかわらず、宿が確保できない。遠野と住田町に宿泊先を確保するしか手がない。多くは遠野から通っている。われわれ行ったときは宿もいっぱいだった。
- ・ コミュニケーション・インフラの整備が早急に必要。
- ・ 岩手県に限らないが、ユニセフ国井さんによると今回の震災の被災者は高齢者の比率

が極めて高い。3割以上が高齢者。高齢者のケアはまだまだ行き届いていない。医療従事者以上に介護士が足りない。

JANIC 大橋：

- ・ 行くときはエリクソンさんのヘリコプターを3団体共同でお借りした。問題は着陸地を用意しなければならないこと。
- ・ パルシステムさんより、ある程度の物資サプライなら無料で提供する、とのこと

1.2. JPF/JANIC 東日本大震災広域調整事務所の設置について（添付資料2）

4月9日に JICA 東北 18 階会議スペースを借りてオープン。事務所の機能について、添付資料に基づいて説明。

1.3. 情報サイト等について

・ JANIC 東日本大震災 NGO 活動情報サイトのリニューアル
サイトをリニューアルし、正会員団体の活動地、活動内容などを MAP と一覧表で見られるようになった。<http://www.janic.org/earthquake/>
今後随時更新していく。

- ・ 情報アップデートのためのご協力のお願い

JANIC で各団体の活動の最新情報を把握し、情報提供やコーディネーションに役立てるため、情報アップデートのシステムを作った。毎週簡単なフォームに記入して、メールで返送してもらう方法でやっていく。各団体にフォームを送るので、ご協力いただきたい。

- ・ 石巻避難所援助物資マップ

ローラー作戦で情報をとっていたものを、可視化して共有するために開発中。
<http://v4isnmk.ebt.jp/> 後に東日本大震災避難所ネットワーク情報共有システム(一心)と名称変更。

毎日アップデートされている。地図にもリンクして表示される。物資の偏り、倉庫の不足など、現地のニーズ把握に役立つと思う。酪農学園大学環境システム学部の金子教授ほかにご協力いただいている。ほかの被災地でもこのシステムを運用したいという方があればご相談いただきたい。ミクロな現場のニーズに即応できることを目指している。

1.4 ソフトバンクの無料携帯電話の貸出について

残り数台。1団体あたり3台程度、通話料無料で6月10日まで貸し出す。必要な団体が多ければ、追加で貸していただくよう依頼する。

2. 各参加団体・組織からの活動紹介、情報提供

(日本国際ボランティアセンター)

- ・ 気仙沼災害ボランティアセンターに2名、駐在員を派遣し、ニーズ調査と災害ボランティアセンター支援を行っている。

- ・ 南相馬市の中でコミュニティラジオの立ち上げへの支援を検討中。

(チャイルド・ファンド・ジャパン)

- ・ 本日付で緊急救援専従スタッフ(船戸さん)が入った。

- ・ 9日土曜日にピースボートへ食材提供。

(ヒューマンライツナウ)

- ・ 5日付けで日本政府に被災者の基本的人権についての提言を出した。

- ・ 弁護士でボランティア希望の人がいるので、法律家が必要な団体があれば知らせてほしい。

(BAJ)

- ・ 先週まで岩手県宮古市、山田町、大船渡市、陸前高田市などで調査を行った。

- ・ 4月7日、大船渡市周辺で活動する3・11三陸気仙復興委員会(通称さんさんの会と協力して炊き出しの支援を行うことを決定した。

- ・ 4月9日から、2名のスタッフが再び岩手県に派遣されている。

- ・ 盛岡に拠点を持つSAVE IWATEと連携の可能性を模索中。

(ピースボート)

- ・ ボランティアを派遣し、炊き出し、泥だしなどの活動中。

- ・ 現在までに400名ほどボランティアを派遣した。現在150名が活動中。

- ・ スタッフは社協の運営サポートにも入っている。

- ・ 海外からのNGOの受け入れコーディネートも行っている。

- ・ アラブ諸国やラテンアメリカなど、計11カ国の大使が現地入りする。

(JHP)

- ・ 当初「つなプロ」へのボランティア派遣と独自のボランティア派遣を同時進行で行っていたが、南三陸町で災害ボランティアセンターを立ち上げたので、これからは独自にボランティア派遣を実施していく。ボランティアは1週間ごとに交代

- ・ 災害ボランティアセンターではスタッフとして、町外からのボランティア受け入れを行う。

- ・ ボランティア派遣は、これまでJHPのボランティアとしてカンボジアなどに派遣された経験のある人中心。

(OISCA)

- ・ フィリピン大使館を通じて依頼された医薬品、おむつなど、愛知県の企業の協力でフィ

リピン大使館と同行して被災地に配布

- ・つくば市等を視察

(JICA)

- ・ JANIC/JPF の広域調整事務所に JICA 東北の部屋を提供
- ・ 職員が義援金、支援金を集めている
- ・ JOCV 隊員が東松島市の避難所支援に入っているが、そこは閉じるというので新たな支援先に移動の予定。
- ・ JOCA 以外の協力隊 OB も山田町などで活動
- ・ 二本松の研修所で 300 人超の避難民を受け入れている。ニーズがどんどん変わるので協力隊員を追加投入してサポートする。
- ・ 先週末から 1 名、ジャパン・プラットフォームにスタッフを派遣。岩手の拠点を立ち上げるサポートを行う。
- ・ 世界中から支援の声が届いている。広尾のひろばなどで展示しているが、被災地にも届けて海外の人と被災地の人がコミュニケーションできるチャンネルをつくりたい。
- ・ JOCA の協力隊 OG,OB は手に職のある人たちの集まり。建物の安全の検証、助産師など 200 人くらい被災地の支援の用意がある。それぞれ職があるのですぐにはいえませんが、現場で協力隊の職種にあてはまるようなニーズがあればご連絡いただきたい。

(内閣官房震災ボランティア連携室)

- ・ 震災をめぐる動きが多面的になってきている。制度の面では、支援金配分についての制限緩和を検討中。
- ・ 被災者対策支援本部とは役割分担をして情報交換している。ボランティア連携室は民間からの情報収集が中心。被災者対策本部は、ほぼすべての市町村の災害ボランティアセンター、県のボラセンターでの情報発信を見つつ政府内での調整中。
- ・ 東京に入る情報、県・市に入る情報のタイムラグを補完する役割を NGO、NPO がやっているという印象もっている。
- ・ 被災地により大規模なボランティア派遣ができる方法ないか（インフラ、公的資金）検討中。

(東京英語いのちの電話)

- ・ 電話カウンセリングを実施中。
- ・ 米国から専門家を招き、臨床心理士やボランティアなどに対するファーストエイドなどのトレーニングを実施。来週あたりから、トレーニングを終了した人を現地入りさせる。
- ・ 心理的なサポートについての冊子を持参したので必要なところがあれば使ってほしい。

(Give to Asia)

- ・ いくつかの団体への長期的資金援助を考えているが、まだほかにも何かあれば知らせしてほしい。
- ・ 在日外国人の Business Woman のイベントが今度あるので、そこで活動紹介したい団体があれば。

(Operation USA)

- ・ 災害時の緊急救援を行うアメリカの NGO。今回の震災では GAP などと組んで物資提供を行っている。
- ・ Inter Action の設立時からのメンバー団体。
- ・ 2nd Phase として小規模なファンディングのためのパートナーを探している
- ・ 物資配布については海外からの輸入許可をもっているところと協力したい。

(国際開発救援財団)

- ・ 法人会員が多いので、物資をたくさん提供してもらい、石巻、女川、塩釜、宮古で食糧提供を行った。
- ・ 今は宮古市で食糧配布から仮設住宅に入る人への備品の提供にシフト
- ・ 山田町、大槌町の避難所で調味料や食器などが不足しているという情報があり、企業の協力で提供の予定。

(JANNET)

- ・ 障害分野 NGO 連絡会 (JANNET) は障害分野で活動する NGO のネットワーク。これまで主に途上国で障害分野に取り組んできたが、国内はあまりやってこなかった。
- ・ JANNET の事務局を担当する日本障害者リハビリテーション協会は、JDF(日本障害フォーラム 13 団体が加盟)のウェブサイト立ち上げに協力。JDF では東日本大震災被災障害者総合支援本部が立ち上がっており、東日本大震災支援全国ネットワーク (JCN)にも入っている。今日は障害関係の団体に情報提供するつなぎ役として出席。
- ・ JDF の県別支援センターは、3/30 に宮城、4/6 に福島に開設。まもなく岩手にも立ち上げる。
- ・ 7 日に仙台で、県の福祉課、仙台市の福祉課、東京と現地の障害者支援団体から約 70 人が集まって、第 1 回の意見交換会を行った。難民を助ける会も参加。翻訳ボランティアの体制も組み始めた。
- ・ JANNET の関連で活動報告会を予定している。

(シャプラニール)

- ・ 先々週福島南部の勿来で災害ボランティアセンターを立ち上げ、今週末から周辺地域からのボランティア受け入れを開始。
- ・ 物資提供も少量行った。

(JICA 地球ひろば)

- ・ 国際協力 NGO の活動を支援する立場で何が出来るか考えていきたい

(JGC 通訳ボランティア事務局)

- ・ 今回の震災で始めて組織。通訳士、通訳ガイド士、医療通訳士、各国語の通訳 700 名が登録し、ニーズに応じて派遣している。
- ・ 先週、インド隊が女川に入って不明者捜索を行ったとき、通訳を派遣した。その後もいくつか要望をもらっている。
- ・ ぜひご用命を。事務局は 13 名体制。

(ジャパン・プラットフォーム)

- ・ JANIC と協力して調整機能の強化を目指して活動。
- ・ JPF は海外の NGO や国際機関などを対象に、毎週土曜日に調整会議を行っている。これまでに 3 回実施。
- ・ 資金面でのサポートは現在は JPF メンバーを対象に行っているが、メンバー外にも広げる方向で検討中。
- ・ そのほか、海外 NGO からの物資、人員などのオファーを日本の NGO とマッチングするための情報提供を実施。
- ・ UN の OCHA が震災発生後から週 3 回 Situation Report を出していたが終了したので、JPF/JANIC として毎週 Situation Report を出していく。
- ・ 土曜日のミーティング議事録は水曜日にウェブにアップしている。
- ・ 今週からクラスター別情報レポートを毎週金曜日にウェブにアップする。

(ソニー)

- ・ 先週紹介したエンターテイメントパック (CD、DVD のセット) の提供に引き続き、ソニーグループとして、東日本大震災で被災された子供達のために活動されている NPO/NGO に向け、銀座のソニービルのスペースを提供する。募金活動や活動紹介などに使ってほしい。時期は 4/23 (土) ~ 5/14 (土) 指定の土日祝日 11:00 ~ 17:00。
(詳しくは添付参照)

(パルシステム連合会)

- ・ ガスコンロ、ボンベの提供
- ・ 岩手生協の支援
- ・ アイコープ宮城をとおした支援。炊き出しと野菜の提供。

(International Medical Corps)

- ・ アメリカのカリフォルニアに本拠を置く医療救援を行う NGO。
- ・ 震災直後から緊急医療チームが岩手県、宮城県の沿岸部に入って活動。

- ・ 東京英語いのちの電話とはパートナーとして心のケアの活動を行っている。
- ・ 日本の NGO とパートナーシップを組んで技術協力、資金協力できればと思っている。
世界中の様々な災害を経験しており、チームには各分野の医師がいる。

(アジアファミリーセンター)

- ・ アメリカで募金活動を実施。Univ. of New Mexico では 2 万ドル集まった。JANIC のまとめて募金へ寄付する。
- ・ カウンセラーの資格をもつ人を呼んで、心のケアのプログラムを行う。
- ・ 園田さん自身もカウンセラーの資格あり。

(JOCS)

- ・ 釜石の被災した教会と協力しながら在宅の被災者の診療を行っている。避難所も医療チームが撤退して取り残されてしまう所などで診療を行う。

(アドラ)

- ・ 仙台市内で炊き出しや避難所の運営サポートを行っていたが、現在宮城県南部の山元町に拠点を移し、炊き出しを 1 日三食行っている。

(WVJ)

- ・ 宮城県登米市、気仙沼市、南三陸町、岩手県山田町、遠野市、大槌町で緊急物資の支援を行ってきた。
- ・ 子どもたちへの支援として、チャイルドフレンドリースペースを南三陸町、登米市、気仙沼市の 3 ヶ所で開設。
- ・ 高齢者への対応も検討中
- ・ 炊き出しの要請に対応

(SCJ)

- ・ 宮城県と岩手県の計 19 ヶ所でチャイルドフレンドリースペース「こどもひろば」を開設
- ・ タオル、歯磨きなどの衛生キットを岩手県山田町で配布
- ・ 新学年の開始にあわせて子どもたちが学校に戻るために必要な学用品等の支援を行う

(ブリジストン)

- ・ 社員で被災地にボランティアに行きたい人が多い。有志がバスで金・土で行く。
人数は 40 人ぐらい。受け入れ先として、ボランティアのご希望あれば連携したい。
- ・ 被災地に限らず、東京での事務局業務などの留守番サポートも何かあれば協力したい。

(トヨタ財団)

- ・ 長期的に復興支援に向けてどういう助成ができるか検討中
- ・ 2011年度の助成プログラムへの応募が進行中。アジアの自然災害、エネルギーなどのテーマで、中長期のものを受け付けている。

(世界宗教者平和会議日本委員会)

- ・ 調査隊が明日から宮城県の被災地に入る。
- ・ 現地のお寺や神社と一緒にできることを考えていく。

(日本キリスト教協議会)

- ・ キリスト教各教派による協議会
- ・ 韓国からの支援のオファーが多い。今日も韓国からの視察団を被災地に案内している。
- ・ ルーテル教会が中心となって行っている物資輸送プロジェクトで、5千トンの水や下着などを被災地各地に送った。
- ・ 今後さらにできることを検討

(博報堂)

- ・ 企業の資金をまとめて募金に誘導したい
- ・ 今後は企業からの具体的なオファーに対する具体的な NGO の活動とのマッチングができればいいと思っている。

(AmeriCares)

- ・ 保健衛生上のニーズに対応するため、宮城と福島の実地 NGO とパートナーを組み、物資提供を行った。
- ・ 東北大学病院に医療物資を支援
- ・ まだ資金があまっているので、必要なものがあれば資金提供できる。申請書のフォームがあるので、それに記入して出してほしい。分野は保健医療に限らない。

(リコー)

- ・ 青年会議所と協力して物資の配布を実施。
- ・ デジカメ、プリンターなどの寄贈
- ・ 福島県双葉町からの被災者がいる埼玉の避難所にコピー機出力サービス
- ・ 中長期的に NGO と一緒にできることを探している

(アークス)

- ・ 現地で支援活動を行っている NGO / NPO 数団体と JANIC へ 50万円ずつの支援金を送った。
- ・ 現地で一緒に活動できる団体を探している

3. 意見・情報交換など

質問

大橋 (JANIC):

FIDR から仮設住宅の備品提供という話があったが、どういうものをスタンダードで揃えるかというのを Red Cross から情報がとれるといい。

小山 (FIDR):

日赤が提供する 6 点については決まった。それ以外のものを提供する予定。岩手県はすべて県が用意する。宮城県は物資は日赤、ふとんはニトリ、日用品は WVJ、など目処はついている。

情報提供

大橋 (JANIC):

ODA の 2 割削減と報道されたことに対して、JANIC から声明を出した。外務大臣に伝えた。

意見交換

定松 (SCJ):

現地の団体も被災したので外から入った団体が緊急のリードをとってきたが、だんだんと地元の団体から、自分たちが責任を持ってやりたいという声が出てくると思う。現地の団体とパートナーを組んでいるところは多いと思うが、ここで集まっているような場が現地側であるのか、現地との協力関係をどうつくっていくか、考え始めていくべき時期にきているのではないか。

合田 (ピースポート)

最初石巻では社協とピースポートのみでやっていたが、後から現地の団体も入って協議会をつくり、役割分担を決めて活動している。

定松 (SCJ):

子どもが学校に戻るための支援を宮城県や他団体と協力して行っている。中学校はユニセフ、小学校は 、など役割分担をしてやっていた。現地の団体もやりたいと申し出たが、すでに我々による支援が決まっていたため、教育委員会で間に合っているとされてしまった。大手がニーズを全部満たしてしまい、現地の小さな団体の善意が受けいられない、というのでいいのか、という声があった。今後ほかの分野でも出てくるかもしれない。現地の人たちが自分たちでやりたいという気持ちは大切にしていけるだろう。NGO の共通の課題として考えていくべきかと思う。

山口 (JANIC):

前から繰り返していることは、NGO が勝手に入って行くのではなく、現地の団体や社協をできるかぎり尊重してサポートとして入ってほしい、ということ。途上国の開発の現場でも、大量の物資を提供して現地の人たちをスプویلしてしまう、ということがある。地元の人たち、地元にあるコーディネーションボディと十分連絡をと

りあい、尊重すべき。

定松 (SCJ):

理想的にはおっしゃるとおり。ただ、これまで現地の NPO が動きがとれなかったの
で外からの団体がやらざるをえなかった。規模が大きい団体だから最初にばっと入れ
たということもある。ずっとそれをやっていたいいと思っているわけではなく、現地の
イニシアチブを大事にとは思っている。山口さんが言われたようなことをシステムと
して、大きな枠組みとして、いかに作っていきけるかを考えたい。

田島 (JANIC):

市町村レベルでも現地で調整会議が行われている。まずはそういうところに入って、
パートナーをみつけて NGO と NPO が話し合う場をもってほしい。今後少し時間を
かけてそういうことができるのでは。岩手の遠野の「まごころネット」など早くそう
いうニーズに気づいている団体がある。そういう情報提供や場の提供はやっていき
たい。

質問

大崎 (JGC 通訳ボランティア協会)

仙台に新しいオフィスを開設しようとしている。JANIC は JICA 東北の事務所の一室
を借りたということだが、どこにコンタクトしたらいいか。

田島 (JANIC)

仙台の事務所の担当者の連絡先をお知らせする。

田島 (JANIC)

パレスチナ子どものキャンペーンから聞かれたことを内閣府災害ボランティア連携室
に聞きたい。政府の雇用サポート基金について、総額 3500 億円で企業、NPO にも出
せると聞いた。大槌などにあれば現地の雇用促進にもなる。

伊知地 (内閣府災害ボランティア連携室)

具体的にどういう雇用促進になるかはまだ聞いていない。基本的に現地の人の雇用。
しかし、NGO が支援事業に現地の人を雇い、そこに雇用サポートとして国の資金が
入るといのはどうなのか。NPO 事業募金は人件費に使えるように規制緩和するよ
う厚生労働省に働きかけている。NGO/NPO の専門家およびコーディネーターの人件
費にも出せるようになるので、こちらを当ててもらったほうがよい。

田島 (JANIC): ポイントは人に出るお金のソースが少ないこと。そこに資金の手当てが
つくことが大切では

大橋 (JANIC): 人手不足で現場はテンパっている。政府のほうで話し合っ
て使い勝手のいいものを出してもらえればありがたい。

筒井 (シャプラニール): 全社協、jcn、共同募金など、全体の動きがわかる人
を呼んで、このミーティングで NPO の動きについてもシェアしてもらえると
いい。

山口 (JANIC): JCN などの会議には JANIC も参加しているので、今後動きを伝えていけると思う。

筒井 (シャプラニール): 現地の温度差の感覚 (大手 NGO の動きと現地の小さな団体の動き) も知りたい。

山口 (JANIC): 東京と現場で NPO の動きも感覚も違う。

田島 (JANIC): 現地の感覚を知るには、現場のコーディネーションミーティングに出るのが一番確実。

船戸 (CFJ): 現地で活動する NPO のリストを出せないか。

山口 (JANIC): 現場の NPO を束ねているところがあるわけではない。法人格をもっているところは NPO センターのデータ、日本財団のカンパニデータで見られるが、JCN のほうでリストができるのでは。

伊地知 (内閣府災害ボランティア連携室):

当方では約 330 団体 4/4 時点のリストをベースに作成中。

田島 (JANIC): JCN のほうはサイトに記載がないところも多い。宮城では宮城連携復興センターがウェブサイトも作成している。遠野市では、まごころネットが三陸の 4 つの市、大槌、釜石、大船渡、陸前高田をカバーしている。これらにコンタクトすればそこに入っている団体がある程度わかる。

定松 (SCJ): 実情として、岩手では遠野が拠点になりつつあるということか?

田島 (JANIC): その流れはあるが、なりきれていない。

山口 (JANIC): 久慈、宮古、遠野の 3 ヶ所が拠点として被災地をサポートしようとしている。

大橋 (JANIC): 山田町は宮古と遠野の間にはまっていてどっちつかずになっている

岩附 (エース): 後から来たので報告を。エースとしては何ができるか模索中。事務局長が仙台出身だったり、知り合いが山田町にいたり、というつながりがあるので、そこから何かと考えているが、現地の学校の事務員の人に、ニーズ調査をしてもニーズはどんどん変わるといわれた。阪神大震災のときに誰がどう対応してどうだったのか、という情報が得られるといい。

中野 (博報堂): 「自然災害ボランティア ABC」(ネイチャーゲーム協会) というハンドブックが参考になる。

細井 (CFJ): 平成 7 - 8 年に阪神大震災の調査報告書が出ている。

CFJ はルーテル学院大学と協働して被災後の子どもの心のケアの手引きを作成。CFJ のウェブサイトにもアップした。子どもが震災後どういう状況になりやすく、どういう対応をしたらいいのか、という内容のもの。参考にさせていただきたい。

次回情報交換会

2011 年 4 月 18 日 (月) 15:00 ~ 17:00 アバコビル 6 F スカイラウンジで開催。

以上

第5回震災支援情報交換会出席者名簿

	団体名	氏名(敬称略)
1	シャプラニール=市民による海外協力の会	筒井 哲朗
2	ピースポート UPA 国際協力プロジェクト	合田 茂広
3	ブリッジ エーシア ジャパン	大津 祐嗣
4	JHP・学校をつくる会	田中 宗一
5	チャイルド・ファンド・ジャパン	細井 なな、船戸 義和
6	日本国際ボランティアセンター	清水 俊弘
7	セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン	定松 栄一
8	オイスカ	林 久美子
9	エース	岩附 由香
10	日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)	大江 浩
11	アークス仏教国際協力ネットワーク	枝木 美香
12	国際開発救援財団(FIDR)	小山 直行
13	障害分野 NGO 連絡会(JANNET)	上野 悦子
14	東京英語いのちの電話(TELL)	佐々木 峰輝
15	JGC 通訳ボランティア	大崎 正信、井上かなえ
16	NM Asian Family Center	園田 京子
17	日本キリスト教協議会	峯田 敏幸
18	WCRP日本委員会	木塚 季代子
19	ジャパン・プラットフォーム	野副 美緒
20	Give 2 Asia	Sarajeon Rossito
21	Operation USA	Richard Walden
22	AmeriCares	Michelle Jakson、浅利 庸子(通訳)
23	International Medical Corps	Neil Joyce、Mesfin Senbeto、佐俣 恵美子(通訳)
24	内閣官房震災ボランティア連携室	伊地知 亮
25	JICA	大金 正知、原 昌平、内藤 徹
26	公益財団法人トヨタ財団	加賀 道、権 修珍
27	パルシステム連合会	鈴江 茂敏
28	(株)博報堂	中野 民夫
29	ソニー(株)	下川 寿代
30	(株)ブリヂストン	室井 孝
31	(株)リコー	赤堀 久美子
32	恵泉女学園大学院(通訳ボランティア)	安部 早織
33	JANIC	大橋、山口、田島、林、渡辺、藤岡